



## 【事例 6】 山武市 : 木戸川上流地域環境保全協議会

### 1. 組織の概要

協定締結年度	協定面積(ha)	構成員	集落数
平成19年度	54.7ha (田:53.9ha 畑:0.78ha)	農業者81名 8団体	3

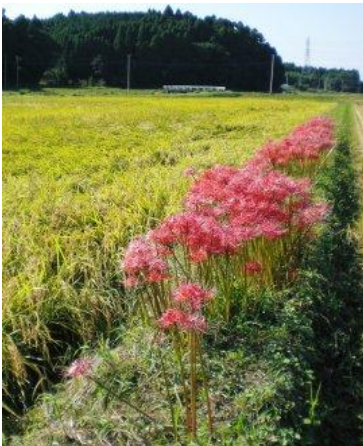
### 2. 地区の概要

本地域は、山武市（旧松尾町）北部に位置する水田農業地帯です。

成田空港から近いため、騒音などの影響もありますが、東西を丘陵地に囲まれ、南北に木戸川が流れる、のどかな風景が広がる地域です。

水田の畦畔には彼岸花が自生し、開花時期には農村風景に彩を添えています。

地域の風景



畦畔に咲く彼岸花

### 3. 合意形成の経緯と組織の運営

対策の内容については、千葉県土地改良事業団体連合会からの情報をもとに、木戸川土地改良区を通じて各自治会や同好会へと自然に情報が伝わっていきました。

水路清掃などは、元々自治会の役割としてやっていたため、反対意見などは無く、活動組織の立上げに苦勞することはありませんでした。

### 4. 特徴的な活動について

#### (1) そばの植栽など

農村環境形成活動では景観に配慮したそばの植栽を行っています。

そばの花といえば白いイメージですが、本地域では、耕作放棄地を活用して、人目にふれやすい道路沿いには、赤い花が咲くそばを植えています。

そばは収穫を行い、近くの蕎麦屋で粉にした後、活動組織でそば打ちを行い、地域住民と試食会を行っています。



赤い花の咲くそば

## 試食会



そばの試食会を通じて地域住民との交流が図られ、対策への理解と協力が得られるよう努力しています。

また、水路沿いに植栽されていたアジサイの管理も行われるようになり、道行く人々の目を楽しませています。



アジサイの管理作業

## (2) 農道のコンクリート舗装



施工の様子その1



その2

地域内の農道は、真新しいコンクリート舗装が目立ちますが、これは、活動組織が自分たちで施工したものです。

本地域では、交付金を集落のために、後世まで残るものに使おう、との考えから、個人への日当の支払を止め、代わりに農道のコンクリート舗装を行っています。

初年度は、あまり見栄えよくコンクリートを敷き均すことができませんでしたが、2年目以降は技術も向上し、見栄えよく施工できるようになりました。

4人並んできれいに敷き均します



## 5. 今後の活動について(体制整備構想など)



舗装の完成した農道

地域内の農業者は、今後も減少していくことが予想されています。

集落内の共同活動は、農地・水・環境保全向上対策が始まる以前から行われてきました。今後は、農業者が減っていく中で、自治会などの非農業者が中心となった体制を考えて行く必要があります、そのための環境づくりがこれからの課題となりそうです。

